



園芸作物栽培についての

これからの対策

Q & A

梅雨時期は排水対策を第一に

今冬の少雪の影響で、桜の開花など自然の暦は例年より7〜10日ほど早く進んでいるような状況です。こうした気象をもたらした超強力だったエルニーニョも5月中には消滅し、二転して海面水温が低くなるラニーニャ現象に推移するとみられると気象庁から発表されました。このことから今夏は太平洋の高気圧の勢力が強まり

猛暑になる恐れが高いと予想されます。今年は冬季から春にかけても気象の変動が荒く、今後もどのような展開となるかわかりません。一番気になる降水量については、現在のところ平年並みと予想されておりますが、今後想定される異常な高温後の降雨は一時にまとまった雨が降ることが多いので注意が必要です。



大門 優
園芸アドバイザー

お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。

◎排水対策

野菜の根は水浸しの状況下に半日あると機能は大きく低下します。丸一日経過すると機能は失われ、以降の生育が著しく遅れるか枯死してしまいます。雨に備えて排水溝の掘り直しを行っておきましょう。雨が降っている最中に畑を見回って、排水や圃場の滞水状況を把握しておくことは、以降の対策を講ずる上で大切なポイントとなります。



圃場冠水した場合、出来るだけ早く排水対策を講じましょう。

◎防除

梅雨時期は病害の発生しやすい気象条件となります。一旦蔓延してしまうと撲滅することは困難となりますので、ダコニール1000、ジマンダイセン水和剤、Zホルダーなど予防剤の使用をお奨めします。

バレイシヨも収穫間近となっていますが、入梅が早い年は疫病が出やすくなっています。また、過繁茂している圃場は特に出やすいので注意が必要です。この病気は



馬鈴薯の疫病、早めの防除が肝要です。

◎泥の跳ね上げ防止

露地の栽培では雨の跳ね上げから野菜を守るためマルチをしない場合は敷きワラを行います。マルチをした場合はマルチ上に水たまりができていないか点検し、水溜まりがあれば針金などで穴をあけて溜まりを解消しておきます。うる性の果菜類(カボチャ、スイカ、ウリ類など)は土壌からの湿気が病気の原因や果実腐敗の原因となります。ワラをしっかりと敷いてやることで土壌表面との間に空気が確保できて健全に生育していきます。



水溜まりができないようにしましょう。

◎整枝

6月は夏野菜の生育が最も旺盛な時期となり、年間でも最も忙しい時期となります。整枝は早め早めに行いましょう。この時期、スイカやカボチャなどは1日で30cm以上伸びることもあります。1週間手入れをしないと、特に果菜類は様変わりしてしまつて手がつけられなくなります。早めに整枝を行うことによって通風採光を図ることが、病害虫の発生を少なくし、収量を上げるポイントになります。

◎追肥

夏野菜は実の肥大が進みますので追肥を打つ時期となります。スイカやウリ類など実のなるものは、花が最盛期となったところに実肥として施します。トマト、キュウリ、ナスなどは初めに着いた実が肥大してきたら追肥を始めます。以降7〜10日毎に少量づつマメに追肥を行います。



調味料などの空容器に肥料を入れ振りながら追肥します。手も汚れず、結構均一に蒔くことができ便利です。

◎雑草の処理

梅雨に入ってしまうと雑草は野菜を上回るスピードで繁茂してきます。この雑草が圃場の風通しを悪くしたり、病害虫の巣となったりし野菜に悪影響を及ぼしてきます。また、排水路などに生えた雑草は水の流れを悪くするので梅雨入り前の好天時に処理しておきましょう。

☆園芸相談事例から

- Q: スイカの実が着かないが?
- A: 毎年スイカ、カボチャ、ウリなどで実が着かないという質問があります。一つには基肥や追肥などで、多くやり過ぎると着果しにくくなります。また、親ツルの摘芯がされていないケースも少なくありません。スイカ、カボチャは子ツル、ウリ類は孫ツルに着果しやすいので親ツルの本葉4〜6枚残して摘芯しましょう。
- Q: 追肥にはどんな肥料が適当か?
- A: 追肥は速効性を求められます。最も多く使われるのは硝酸態窒素を含む「尿素」です。その他、栽培期間の長い夏野菜には基肥でも使つ「園芸有機特A000」や「あひび」も使用します。地温の高い時期です。有機質肥料も使われますが、窒素成分量が低いと、効果が遅いので特性を理解して使い分けたいという資料です。

- Q: キュウリの枝が多く伸びすぎて収穫がつかない。
- A: キュウリは下のほうから発生した脇芽が勢いよく伸びてきて過繁茂の原因となります。ですから、下からの節目までの脇芽はすべて取り

り去ります。6節以降の脇芽は本葉2枚程度残してその先を摘心します。こうすることによって草姿がすっきりするとともに、順次安定した収穫が続くようになります。

- Q: スイートコーンに虫が入って困っている。
- A: 防除時期は雄花の開花はじめと、雌花の絹糸抽出時期の2回、トレボン乳剤を散布します。雄花は花粉の出が終わったから切除しておきましょう。

- Q: ナスの新葉がボロボロになるが?
- A: ナスの新葉が小さいうちにメクラカメムシという小さな害虫が食害します。その後葉が大きくなるにつれ食害痕も大きくなって目立つてきますがこのころには害虫はいません。早めにアデオン乳剤かマラン粉剤を散布しておきましょう。



ミドリメクラカメムシの食害痕

- Q: スズキーニが梅雨の間に株元から腐って困るが?
- A: スズキーニは株元が込み合うことと、収穫後の傷口が大きいため、雨が降り続くようになると腐りが入りやすくなります。梅雨の間は雨除けをしてやることで腐りは出にくくなり、元気がよく生育します。

- Q: オクラにアブラムシがついて困る。
- A: トレボン乳剤かアデオン乳剤、スタークル顆粒水溶液を散布します。一般的に窒素肥料を多く与えるとアブラムシが発生しやすくなります。

- Q: カボチャにオレンジ色の虫がたかって困っている。
- A: これはウリハムシです。スイカ、カボチャ、キュウリ、メロンを好みます。山沿いでは飛来が多く、苗が小さいうちに食害されると以降、生育不良となつてしまいます。また、近くに卵をつみつけ、ウジ虫状の幼虫が土中で根を食い荒らす困った害虫です。早いうちからマラン粉剤かマ



ウリハムシの成虫